

# 北九州市民の会ニュース



## 9条こそ平和への道



2023 平和のための戦争展 in 北九州

ロシアによるウクライナ侵略が1年以上続く中、第28回「2023平和のための戦争展in北九州」が8月19・20日、八幡西区の黒崎コムシティで開催されました。2日間で400人超が来場。記念講演はジャーナリストの伊藤千尋さんが「安心して暮らせる日本、世界へ 戦争準備より平和の確立を」について講演。村田さち子さんの語り部、北九州市議会議員の

永井祐夫妻による「青年の主張」など盛りだくさんの企画がおこなわれ、約200人が駆けつけました。戦時資料や写真など多くの貴重な資料が展示された市民ギャラリーには2日間で約200人が真剣な表情で資料を見て、読んで、学んでいました。8月26日には小倉北区などを回る戦争遺跡めぐりツアーも実施されました。



伊藤千尋さん

アの若者が徴兵逃れでインドネシアに去年、5万8000人も訪れていることも紹介。ウクライナ侵略を

(2面に続く)

**平和憲法は押しつけではない**

2014年に朝日新聞退職後も、フリーのジャーナリストとして活躍する伊藤千尋さん(74)はまず、1年以上続くロシアによるウクライナ侵略について、世界がどう動いているのかを振り返り、「ロシアに対して直ちに国連は非難決議し、圧倒的多数の賛成です。反対したのは。ロシア、ベラルーシ、シリア、北朝鮮など軍事独裁国家ばかり。世界の人々がロシアの侵略に対して抗議の声を、翌日にはドイツのベルリンで8万人がデモをして、日本の東京でも40000人の若者が渋谷で声を上げた」と話し、ロシアは当初、2週間で特別軍事作戦が終わると考えていたこと、

### 平和の道を堂々と



三輪実行委員長

侵略戦争を反省して、もう2度と戦争はしないと誓い、そのために軍隊を持たないと決め、その思いを憲法9条に込めて、戦後の平和への道を歩んでまいりました。今日の戦争展で、もう一度歴史の真実に眼差しをむけて、戦争の悲惨さを互い学び合い、互いの心に刻み合い、平和の道を堂々と突き進んでいこうではありませんか。

岸田政権は安保三法案を閣議決定し、私たちが国民に大軍拡増税を突きつけ、ひたすら戦争の道を突き進んでいます。一方、私たちはあの

きつかけに日本で大軍拡や憲法9条改正が求める声が強くなっている点について、「去年でさえ、日本の戦力は世界9位。防衛費を倍増したら世界第3位。明らかな憲法違反」と指摘。また1928年のパリ不戦条約成立に奔走しその後失脚した幣原喜重郎首相について「彼はこう考えたという、そういう文章を国会に残してあるんですね。原子爆弾ができた以上、世界の事情は根本的に変わってしまった。戦争をやめるには武器を持たないことが1番の保障になる。武器を持たない、つまり軍縮です。軍縮を可能にする方法は1つ。世界が一斉に一切の軍備を廃止するのがある。ここまで考えを進めてきた時に、第9章というものが思い浮かんだ。今こそ平和のために立つ時ではないか」「そのあと、押し付けというところに触れてます。憲法は押し付けられたという形を取ったわけであるが、当時の実情として、そういう形でなかったら実際にできることではなかったんです。当時、この幣原さんは総理大臣になっただけでも、周りの他の政治家たちについては軍国主義のまま。彼はどうしたか。「僕はマッカーサーさんに進言し、命令として出してもらおうように決心した。一步誤れば国賊の汚名を覚悟しなければならぬ。僕は2人きりで長い時間話し込んだ。全てはそこで決まった」とこれは1946年1月24日のこと」と当時の秘話も披露しました。

語り部

# 動くことと撃たれる



語り部は、7歳の時に太平洋戦争が始まり当時の八幡市で大空襲を経験された村田さち子さん。戦争の過ちを繰り返してはならないという強い思い当時の体験

を話しました。戦争が激しくなる中、生活は一変。主食のお米、衣類なども配給制となり、「もう圧倒的に物が不足」になったといいます。建物疎開で現在の八幡東区の中央町の一角は何十軒がなくなりました。米軍による空襲も相次ぎ、「その時はみんな縁とか

壁とか、そこらでみんなバーってはりついて動かないようにして。そして、飛行機が行ってしまっただけから、また動くものは撃たれるという風に聞いてました」と村田さんは話しました。また空襲で亡くなった人々の死体を焼いた煙が家の中に充満したこともあるなど、戦争の現実を語りました。

青年の主張

# 学んだことを伝えたい

「青年の主張」は、市議会議員の永井佑夫妻と進行役として平和資料室の小松さんが登壇。平和な世界を構築していくために何をすべきかについて会場の参加者に皆さんと意見交換を行いました。



永井議員は岸田政権下での大軍拡や敵基地攻撃などの問題点を解説し、昨年安倍元首相を礼賛する記事ばかりを掲載した「読売KODOMO新聞」が市内小学校で配布された件を取り上げ、学校現場での主権者教育が十分おこなわれていない点にも触れました。会場からは「新聞に自分の意見を投稿してほしい」「今回の戦争展で知ったこととか考

えの部分を職場で話したい」などの声がありました。

# 来場者の感想

など初めて聞きました。戦争中のことなど聞くと平和は大事だと思ふ。

● 日本国憲法が出来た経過について、知らなかったことが話され、確信になった。北九州にも9条の碑を作りたい。今日のお話をきっかけに作る運動に繋がればいいと思う。

● ウクライナ問題。憲法9条ができたいきさつが分かりやすく面白かった。特に幣原首相が、マッカーサーに進言して、日本に「9条」をつくらせたエピソードが良かった。

● 当時、八幡に居住していませんでした。その当時のことが語られ、住んでいた地域の話など戦中の歴史がわかりました。戦後は苦労されたのでしょね。八幡大空襲の中で、死体を焼く生々しい実態

● 「この手の中に」群青」とても感動しました。戦争はいらないと。「そんな町を」歌詞をスクリーンで出してくれてありがとうございます。懐かしい面々。

● 年代も性別も違う様々な人の意見を聞くことが出来面白かったです。私は中学生なので、同年代の話も聞いてみたいと思いました。

● 自由モノが言える時代に生きて幸せです。だから、たくさん発信しないともったいない。今日また改めて、自分ができるところからやっていこうと思う。

